

# 研修報告書

令和4年2月15日

所属	訪問看護ステーション Cruto京町	氏名	田中 裕貴
日時	講義視聴: 令和3年8月24日～令和3年10月28日 事前課題: 令和3年8月24日～令和3年10月4日 グループワーク: 令和3年10月29日		
研修名	令和3年度厚生労働省委託事業在宅医療関連講師人材養成事業 「訪問看護師人材養成研修」		
テーマ・目的など	目的 1) 教育の基本的な考え方を身につけ「自地域において講師人材となることができる」、「自地域において訪問看護の人材の確保、推進・普及に関する研修の企画・運営ができる」人材を増やすことを目的とし、二次医療圏など地域ごとに高度人材を養成することを旨とする。ただし、高度人材養成を目指す地域単位は人口規模や地域資源のあり方などを踏まえ、二次医療圏のみでなく、市町村や保健所圏域など地域の実情を尊重する。 2) 受講した者が、受講後に行政の訪問看護担当者やこれまでの受講者とともに、当研修会での学びを活かして、今後必要な活動やその内容を検討し、地域における訪問看護人材の確保・育成に関わることができる。 3) 地域における課題の解決に向けて、受講年度を超えた受講者同士が継続的に有機的なつながりをもてるようにする。		
会場・場所	講義及びグループワークともにWebによる開催		
研修内容	講義視聴 総論1 本研修の趣旨説明 地域包括システムと訪問看護 総論2 在宅医療・介護における行政と訪問看護の連携の実態 総論3 訪問看護の対象者の理解 総論4 学習支援と教育 各論1 訪問看護の価値を伝える(ロールプレイ) 各論2 令和2年度受講者活動報告 各論3 グループワークの進め方の説明  グループワーク 各論4 自地域における訪問看護の量的拡大及び質の向上のための研修プログラム開発		

<p>成果/感想</p>	<p>I.目的の達成度</p> <p>1.目的1)に関して</p> <p>本研修とは別に教育関連の研修を受講済であったため、教育の概念や看護師の学習者としてのレディネスに関してはある程度理解することができた。また、目的にもあるように「地域の実情に尊重する」ことも重要であるが、一方で「事業所の実情」にも目を向ける必要がある。後任不足や常勤換算数の最低人員数での運営を強いられている事業所もある。研修の企画や運営にマンパワーをとられるため、根幹である事業所の運営自体の危機にも直面する現状もある。あくまでも、人力的な課題をクリアしなければ目的の達成は困難であると考えられる。</p> <p>2.目的2)に関して</p> <p>受講後に行政の担当者や今までの研修受講者と研修企画に関する内容での接見した経緯はないため、目的の達成には至っていない。訪問看護師の人材確保・育成は数年間議論されていっているが抜本的な解決には至っていない。そもそも、看護師不足が取りざたされているのに訪問看護師が増加するとは容易に考えにくい。そのため、今までにない大胆な施策や研修を企画する必要があると考えた。例えば、訪問看護師専門学校を開設することや行政との関わりも重要と考え訪問看護師出身の地方議員や首長を育成する政治向けの研修会を企画するなど、誰も思いつかない独創性のある大胆な方向転換も必要と考えられる。</p> <p>3.目的3)に関して</p> <p>訪問看護ステーション連絡協議会を通して、本研修受講経験者と活動することができており一定の達成を得ている。</p> <p>II.感想</p> <p>1.講義視聴に関して</p> <p>コロナ禍でありWeb(録画)での講義視聴となった。特に問題はなく視聴することが可能であった。視聴後に行われる確認問題が難しく、回答に難渋した。富山県の事例は興味深く聞くことができた。常勤換算数7人以上などのある一定の条件を満たすと助成金が施行される事例が取り上げられいた。様々な考え方があってと思うが、ステーションの大規模化を促進する一助になると考えられた。また、2011年から2019年にかけて小児訪問看護対象者は約3倍、精神訪問看護対象者は約5倍と利用者のパイは増加している現状にある。この両分野は今後も訪問看護界の課題とチャンスになるのではないだろうか。</p> <p>2.グループワークに関して</p> <p>当グループでは研修の企画というよりは、自ステーションの課題を出して意見をもらうような形になってしまっており、ファシリテーターがファシリテーションに苦勞されている印象を受けた。そのため、特に研修の企画をしたという意識はない。しかし、多くのステーションが同様の悩みを持ちながら利用者のために訪問看護を提供している、厳しい事実を改めて痛感させられた。</p>
<p>備考</p>	<p>特になし。</p>